様式4

令和4年度 第2回学校運営協議会評価報告書

鳥取県立倉吉東高等学校
 学校長 福光 浩

評 価 日	令和5年2月27日(月)	
評 価・提 言	学校の所見・改善策	
<p>1 重点目標の達成状況について</p> <p>(1) 学校の魅力化・特色化の推進と発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I Bの広報について中部地区はできているが、今後東部西部、県外にどう発信していくか。 ・ SNSの効果的な利用が大切である。都会から見れば公立高校で国際バカロレア（I B）教育を学ぶことができることは大変魅力的である。 <p>(2) 定時制教育のさらなる充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒に関する情報共有という文言が今年度の自己評価表にはないが、定着したため削除されたと考えており、良いことだと思う。 <p>(3) 生徒支援の充実と業務改善の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒を細かく指導されたり、業務改善でのデジタル化等で、先生方の負担感やストレスが増えているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は、学校独自に行った中学生・保護者対象のI B説明会に77名が参加した。来年度は他地区でも説明会を開催する。また、中学校から要望があればかけていく予定である。I Bについては、県の事業での広報の他にも、東京・関西等の鴨水同窓会での広報も行いたい。SNSは今後の課題である。 ・ 定時制の職員間での生徒情報の共有は定着しており、学習・生徒指導の面で効果が出ている。今後も継続していく。 ・ 時間外業務の時間は減っており、夜遅くまで残る教員も着実に少なくなっている。 	
<p>2 目標達成のための取組結果について</p> <p>(1) 学校の魅力化・特色化の推進と発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東高が多様性をもち、学校で様々な体験ができることが大切である。 ・ 地域の活性化のためにも、東高が鍵となる。地域の核となり、牽引していく学校になってほしい。 <p>(2) 定時制教育のさらなる充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園祭の4日間実施や、大学等の訪問などの探究活動を推進するなどしている。残念ながら今年度末の生徒募集では定員割れの結果となった。来年度は早くから中学校を回るなどの努力をしていきたい。 	

<p>(3) 生徒支援の充実と業務改善の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で生徒たちの体力面での変化はあるか。授業を見ても、静かな印象を受ける。 <p>3 具体目標の達成状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての項目の評価について、委員から承認を得た。 <p>4 目標達成のために取り組んだ具体方策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を見て、教え合いながら学ぶ姿を見て、主体的な学びが進んでいることに安心した。主体的な学習の育成には、対話の中でどんな活動を仕掛けていくが大切である。授業アンケートの取組はよいので、授業改善の手掛かりとしてほしい。 ・定時制の関西研修は生徒の視野を広げるとともに、ジゲ文化探訪は地元を知る良い機会となっている。ぜひ続けてほしい。 <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校の評価を上げるためにも、もっと特色のある生徒を育ててほしい。IBはそのためのよい方法である。(名越氏) ・まだまだ感染症対策には手を緩めず取り組んでいかなくてはならない。(平川先生) ・今度の入学生はコロナ禍の影響を受け、声が出ない、活動的でない生徒が多い。中学校で育てきれなかった部分があることに配慮して、高校で伸ばしてほしい。(加嶋校長) ・地元の中学校は中部地区高校への進学がついに50%を割った。東高への進学しない理由も保護者から聞いている。保護者の声にどう対応するかが今後のカギになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休業や学級閉鎖等もあり、生徒のエネルギー、パワー。バイタリティは少なくなった。これからどう取り戻していくか検討したい。 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果からは、教員の工夫への評価が高いが、生徒の自発的な学習に関する項目の評価が高い。成果物の評価や探究的な学びのフィードバック等を通じて、学習への動機づけを高め、主体的な学びを深めさせたい。 ・夜間中学訪問は生徒の学びへの動機づけになっていることが感想文からわかる。定時制の生徒は体験が少ないことから今後もこの事業を継続したい。 <ul style="list-style-type: none"> ・IBの学びを県下に還元することは本校の使命である。校内でもその本質を多くの生徒が享受できるよう工夫したい。 ・今後、教育委員会からコロナ対策が提示されることとなる。教育活動を元に戻していくにはエネルギーが必要だが、予算を有効に活用し生徒の元気を取り戻したい。 ・現在、中長期に渡る課題について検討している。スクール・ミッションの策定と併せて、保護者に学校の方針が理解してもらえるよう努力していきたい。
--	--